

平成二十九年 江戸川看護専門学校 入学試験問題

国語 (一次試験)

注意

1. 指示があるまで開かないこと。
2. 試験時間は五十分とする。
3. 受験番号、氏名を解答用紙に正確に記入すること。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. その他の注意事項は、試験官の指示に従うこと。

一

次の①～⑮の各文中の傍線部のカタカナを漢字にせよ。

- ① オンワな性格。
- ② リジュンを追求する。
- ③ 図書館のエツラン室。
- ④ 責任をテンカする。
- ⑤ ザンテイ的な処置をとる。
- ⑥ カンチガいも甚だしい。
- ⑦ 少しガマンが必要だ。
- ⑧ 用件をウケタマワる。
- ⑨ ギセイ的精神。
- ⑩ クラブのコモンの先生。
- ⑪ 運動会をカイサイする。
- ⑫ 任務をスイコウする。
- ⑬ コヨウ契約を結ぶ。
- ⑭ キトク状態を脱する。
- ⑮ 巨匠の作品をモホウする。

二

次の各文の□に入れるのに最も適当な四字熟語を後の選択肢から選び、記号で答えよ。

- ① 幼友達の彼とはまさに□な間柄だ。
- ② 彼の□なふるまいは、周囲のひんしゆくをかった。
- ③ まさに□のチャンスがめぐってきた。
- ④ 最初の意気込みはどこへやら、□に終わった。

ア 千載一遇 イ 呉越同舟 ウ 以心伝心
エ 無味乾燥 オ 竜頭蛇尾 カ 傍若無人

三

次の①～④の言葉の意味を選択肢から選び、記号で答えよ。

- ① すみに置けない
- ② 枚挙にいとまがない
- ③ 押しも押されもしない
- ④ 腹藏がない

- ア 包み隠すことのない
- イ 数え切れないほど多い
- ウ 堂々としている
- エ かなわない
- オ 遠慮しなくていい
- カ 問題でない
- キ 性質が卑劣だ
- ク 意外に力がある

四

次の各文のうち、敬語の使い方が適当でないものを一つずつ選び、それぞれ記号で答えよ。

- ① ア 私は田中と申します。どうぞよろしく。
イ 先生から子供にご注意申してください。
ウ 祖母がよろしくと申しております。
エ ご注文は当方で申し受けます。

- ② ア 明日は御自宅にいますか。
イ お返事をくださってどうもありがとうございます。
ウ あなたのおっしゃるとおりです。
エ どうぞ遠慮なく召し上がってください。
- ③ ア アメリカ留学中は何かとご助力いただきました。
イ お隣の方からお土産をいただいた。
ウ 次回の研究会から参加させていただく。
エ 先生、ご馳走が冷めないうちにいただいでください。

五

次の熟語の上に漢字一字を添えて反対語（否定語）を作りたい。
あとの選択肢からふさわしいものを選び、記号で答えよ。

- ① () 理解
- ② () 常識
- ③ () 制限
- ④ () 個性
- ⑤ () 完成
- ⑥ () 利益

ア 不 イ 未 ウ 非 エ 無

六

次の文学史について説明した各文の()の中に入る適当な語を、
それぞれの選択肢ア～エから一つずつ選び、記号で答えよ。

① () は夏目漱石とならんで、反自然主義的立場に立ち、『舞姫』
など数多くの名作を生んだ明治の文豪である。

ア 幸田露伴 イ 森鷗外 ウ 田山花袋 エ 島崎藤村

② 小林多喜二は昭和四年、『()』で一躍プロレタリア文学作家
として第一人者の地位を確立した。

ア 春琴抄 イ 山月記 ウ 蟹工船 エ 和解

③ 詩集『月に吠える』や『青猫』などを出した() は口語自由
詩の完成者である。

ア 上田敏 イ 北原白秋 ウ 高村光太郎
エ 萩原朔太郎

七

次の文章を読んで後の設問に答えよ。

一方に臓器移植でしか救われない人がおり、また一方に何らかのかたちで臓器を提供する人がおり、移植をいようという医師がいるならば、臓器の提供に問題がないかぎり、この移植治療を認めないのはむしろかしいように思われる。今、人は医療技術がそれを可能にする世界に生きており、もしそれが他者の生存のシンガイでないならば、生きたいと願う人に、その可能性を否定する権利は誰にもないからだ。

ただ問題は生命維持に不可欠な臓器の場合だ。その場合、移植治療は臓器を提供する人の死を待たなければならぬ。とはいえ死が、死んで行く人の全身を覆ってしまつてからでは遅すぎる。移植には「生きた」臓器が必要だからだ。A 死がその仕事を果たし終える前に、臓器を死から救い出さなければならぬ。①そこにこの医療技術が「脳死」と結びつく理由がある。

ふつう死は、心臓が停止して血流がとどえ、それに続く全身の生命活動の停止として起こる。B 先に機能停止におちいることがある。

この場合、中枢神経をまとめる脳の死にとって全身もやがて死ぬことになるが、人工呼吸器の力でしばらくの間は（そして現在ではかなり長期にわたって）脳死状態の身体を「生かして」おくことができる。C 死を抑制するテクノロジーの介入によって、生を手放しながらなお死を中断された、ある種の中間的身体が作り出されるのである。

脳死が心臓死と決定的に違うのは、死が全身に及ぶプロセスや、そのタイム・ラグのためではなく、このきわめて現代的な「死」が、先に述

べた②「中間的身体」を生み出すからである。脳の機能を失ったこの身体は、もはや人格としての発現をいっさい欠いて、いわば誰でもない身体として横たわっている。

脳死が、現在の医学水準に照らして、死の不可逆的な進行を示すものであるなら、それは臓器摘出の違法性を阻却する目安とはなりうるだろう。だがそのこととはまったく違う問題である。脳死をめぐる現在の論議の中で問われているのは、実は脳死と心臓死とずれが厳密な意味で「人の死」ということではない。それは向こうから訪れる死を確認していたのでは遅いのだ。そこで脳死を人の死とみなし、その段階で身体を人格性のコウソクから解放することにする。それでなければせっかく死を抑止しても、いずれ死にすべて引き渡すことになってしまう。だがこの「みなしの死」によって、「誰でもない身体」はもはや「人ではない身体」となり、脳死身体の「資材」化への道が開けることになる。言ってみればそれは、役立たない自明の死を、人間の利益にそくして人間が規定する「役立つ死」へと転化することである。

人間はこれまでありのままの世界を否定し、それを人間にとっての世界へと転化して、自己の可能性の領域を拡張してきた。その人間にとっても、死だけは最近まで、無意味な喪失であり続けた。だがテクノロジーは死を壁際まで追いつめ、ついにその領分から生に回収しうる部分を取り戻すにいたつた。この「みなしの死」によって、今や死は新しい「資材」を分泌する生産的な死、人間自身の規定する「人間的な死」となった……文明の武勳詩はこの詩の征服をそんなふう語るのかもしれない。

だがこの論理は「事態の「不気味さ」に目をつむっている。医療のテクノロジーがもたらしたのは、「人ではない身体」とか人体の「資材」化とかいう、人間のまったく「非人間的」な可能性なのだ。核兵器や遺伝子工学が象徴するように、現代のテクノロジーはもはや人間の道具におさまる範囲を超えて進んでいる。そこでは人間に「役立つ」はずのところが、人間を「非人間化」するようにさえ働くことになる。人間はテクノロジーの主人ではなく、テクノロジーが変えてゆく世界の中で、いつのまにか自分もいっしょに変えられているのだ。だから人間はこの「不気味」な状況を欺瞞なしに受けとめ、そこに身を置きながらありうべき関係を探つてゆくほかはない。それが「非人間化」する世界の中で、唯一保ちうる「人間的」態度だと言えるだろう。

あの身体には、もはやそれを「私だ」と主張する人はいない。ではそれは「人」ではないのか？ここで本当に問われているのはそのことである。実はその種の問いを人間はすでに発したことがある。世界戦争に象徴される今世紀の人間の、栄光と同じように悲惨だった体験は、征服のテクノロジーの中で非人格化した身体的存在を、「それでも人だ」と言うことから出発する実存の思想を鍛えてきた。それがこの問題にも大きな示唆を与えている。

移植治療によって人が生きられるのは、人間が身体的存在だからである。それに、移植される臓器は「生きて」いなければ役に立たない。その「生きている」身体から、それでも臓器の摘出が許されるのは、なかば死に委ねられたこの臓器も、他者の身体に引き取られてしか生きえないからである。つまり、死ぬべき臓器は他者において復活するのだ。

一方それを引き受けた他者も、委ねられた臓器をけっして自分のものとして同化するわけではない。その人の身体は免疫抑制剤によって自己の固有性を弱めながら、他者の臓器を受け入れているのだ。⑤ そのようなリレーのうちに身体的生命はそれ自身の論理を貫いており、部分身体を受容と復活をとおして、不老長寿とは別の「不死性」のきらめきさえのぞかせている。医療体制をめぐるさまざまな問題や、折しも、勝ち誇る「市場経済」の無慈悲な運動に身をさらしながらも、「甦る鼓動」がなおかつ人を感動させるのはおそらくそのためである。

(西谷修の文章による)

※武勲詩：英雄の功績を誉めたたえる詩。

問一 傍線部 i ~ v のカタカナは漢字にし、漢字は読みをひらがなで答えよ。

問二 文中の A ~ C に入る適当な語をそれぞれあとの選択肢から選び、記号で答えよ。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけない。

ア たとえば イ ところが ウ しかし エ だから
オ つまり

問三 傍線部①とあるが、その理由とは何か。本文中から十七字で抜き出せ。

問四 傍線部②「中間的身体」を説明したもので、最も適当なものをあとの選択肢から選び、記号で答えよ。

ア 一度は死んだ身体をテクノロジーの介入によって生き返らせた、誰でもない身体。

イ 死を中断されて人格の発現を欠いた状態で生かされた身体。

ウ 本人は臓器提供の意志を示すカードを持っていながら、家族が提供に同意しない状態の身体。

エ 心臓死によって生命活動を停止した身体を人工呼吸器で生かし、資材化した身体。

問五 傍線部③「人間的な死」とは、ここではどのような意味か。最も適当なものをあとの選択肢から選び、記号で答えよ。

ア テクノロジーによって人間の身体を資材として生産可能にし、人間自身が規定できるようになった死。

イ 家族や知人に看取られながら、この世の生命活動を終える死。

ウ 本人自身がどのような形で人生を終えるのかを自由に決められる死。

エ 臓器が提供され、失われるはずだった命を救うことに役立てた死。

問六 傍線部④「事態の『不気味さ』」とはどのようなことを説明している一文をこれよりあとの文中から探し、最初と最後の四字を答えよ。
(句読点・記号を含む)

問七 傍線部⑤「そのようなリレー」とは、ここではどういうことか。五十字程度で説明せよ。

七			五	四	二	一								
問七			問四	問三	問一		①	①	①	⑬	⑨	⑤	①	
					v	i								
					ねられて		②	②	②					
		問五												
					問二	ii	③	③	③	⑭	⑩	⑥	②	
		問六 最初			A	って	④		④					
					B									
							⑤		③	⑮	⑪	⑦	③	
					C	iii			①					
		最後					⑥		②					
						iv		⑥			⑫	⑧	④	
							①	⑥	③					
							②		④					
							③							

受験番号

平成二十九年 度 江戸川看護専門学校 入学試験 解答用紙

国 語 (二次試験)

氏名

得点